

車向け樹脂加工技術が強み



大原 鉦一 社長

インターネットの発達で情報が瞬時に世界を駆け巡る「ボーダレス」の時代である。企業活動も「業種」や「地域」の垣根を飛び越えた事業スタイルが当たり前になっている。欧米や中国、東南アジアに設けた現地法人は14社、日本国内にも関係会社11社を擁し、トヨタ自動車など自動車業界に太いパイプを持つ名古

槌屋

屋市の専門商社、槌屋は「業種」「業務地域」両面で、ボーダレス志向を強烈にアピールする先進企業である。

「無いものなんて、無い。そんな、夢のような世の中を創ることが、私たち槌屋のDNAです」。会社案内のトップページには大原康之会長、鉦一社長の笑顔の写真がレイアウトされ、「創造と挑戦」という見出しの下には、こんなコピーが躍る。1950年に会長の父が創業した小さな塗料問屋

は、自動車向けのフィルムやテープ加工などのメーカー部門の成長をエンジンにグローバルでの社員数3200人、連結ベースの年商が1200億円の準大手の商社として世界に飛翔。エコカーの技術革新などを追い風にさらに業容に加速がついている。

「フィルムやテープなど樹脂が関係するジャンルのコーティングやカッティング、成形など幅広い加工技術を保有しているのが当社の強み。また

気体や液体の調査・充填、繊維の織り・編み、さらに画像処理など多様なコア技術と設計、試作、評価、分析など駆使して、自動車業界などの顧客の厳しいニーズに添えている。当社の技術を今後、航空機やロボットなどの成長産業にも展開していきたい」（大原鉦一社長）。

インドネシアの新工場稼働も順調で、来期は海外でのM&A（合併・買収）など思い切った戦略も浮上してきそうだ。

業種・地域の垣根越え展開